

第4回 高校生から学ぶ ふくしまの今とこれから

ふくしまの食相談センターでは、今年度も福島と東京の学校活動を紹介し交流するつどいを開催します。「高校生から見た福島の今」を知ること、復興の現状と福島のこれからについて意見を交わす場にしたいと思っています。みなさま奮ってご参加ください。

開催日

2026年3月14日(土)
10:00～16:00

開催場所

国立オリンピック記念青少年総合センター
[発表会場/ポスター会場]
国際交流棟レセプションホール



会場のホームページが表示されます。
「交通アクセス」をご確認下さい。

スタート



定員 150名

参加費 無料

参加申し込み方法

①お名前②ご所属③連絡先（メールアドレスまたは電話番号を明記の上、下記にお申し込みください。

申込期限 **2026年3月1日**



イベントスケジュール



9:30 受付開始
参加校オリエンテーション
10:00～12:20
高校生学習発表
大学生研究報告
12:20～13:00 昼食
13:00～13:30 講演
13:30～14:00
グループディスカッション
14:10～15:00
グループ発表・講評
15:00～16:00
ポスターセッション

ゴール



主催：ふくしまの食相談センター

(公益社団法人 全国消費生活相談員協会内)

担当：澤木・尾嶋 本事業企画担当：永田、坂田、南澤

電話： 0120-660-926

(受付時間：火、水、木、土、日の10時から16時)

FAX： 03-3527-3118

メール： fukushima@zenso.or.jp

学習発表・研究報告校のご紹介

学習発表校

福島県立安積高等学校

郡山市にある創立141年の県内屈指の伝統校。
2024年度にはSSH（スーパーサイエンスハイスクール）の第Ⅲ期指定を受けるとともに、2025年度からは併設中学校が開校し、公立中高一貫の進学拠点校としてさらなる飛躍を目指している。2023年度まで9年間実施された国際高校生放射線防護ワークショップを主催するなど、福島県内外海外高校を巻き込んで震災原発事故後の福島の課題への探究活動にも積極的に取り組んできた。2022年度は処理水問題、2023年度は除去土壌再生利用問題、そして2024年度は甲状腺検査と過剰診断を取り上げ、福島復興の観点からの発信を続けている。

福島県立磐城桜が丘高等学校

浜通り南部のいわき市にある創立121年の伝統校。
総合的な探究の時間を中心に、探究学習に取り組み、地域企業等からの協力を得て実践的な学びを行っている。
昨年度は、科学部が廃炉・除染・除去土壌などの福島問題やNIMBY問題についての考察を発表するとともに、家庭クラブが地産地消や風評被害払拭の架け橋として活動する「檜葉町さつまいもプロジェクト」について報告。地元企業と共同開発した試食品を提供。

福島県立相馬農業高等学校

浜通り北部の南相馬市にある創立122年の農業高等学校。
農業の魅力を発信する活動の推進や、福島イノベーション人材育成実践事業の成果を生かした探究活動を通して、将来の地域社会に貢献できる人材を育成する農業科の専門高校。昨年度は、ICT温室等の先端技術を用いた農業生産と地域連携活動や、郷土料理「ベンケイ」の普及活動を発表。地元企業と連携した「浜の大豆コンソーシアム」開発商品等を展示。

福島県立福島高等学校

福島市にある創立127年の伝統校。学校の伝統である「自由」の精神とのびやかでおおらかな校風のもと、自ら主体的に学ぶ習慣を身につけ、高い知性、豊かな人間性、自らと社会を変える変革マインドをもって社会を創造する人間育成を目指している。SSH事業（第Ⅳ期）を軸に解のない課題に取り組む探究的な学びを実践。昨年度は「放射線班」の研究活動として、「除去土壌の減容化と漂着軽石の利活用に向けたポルサイト合成」について発表

東京都立戸山高等学校

東京都新宿区にある創立136年の伝統校。
2023年8月に開催された国際高校生放射線防護ワークショップに参加するなど、SSH（第Ⅳ期）としてスクールミッションの「国際社会に貢献するトップリーダーの育成」を目指している。昨年度は、「原子力発電の日本と海外における比較」として、福島事故が世界にもたらした影響と教訓について発表。また、日本人の原子力発電に対する今後の意識の変化をテーマに考察した。

New

福島県立相馬高等学校

相馬市にある県内屈指の伝統校。創立127年目を迎え、現在までに2万名余の有為な人材を輩出している。
校訓「至誠」と「克己と進取」の精神のもと、相双地区の進学指導重点校として普通科と理数科を併設。理数科では創造性や思考力を高めるための探究活動や研究活動を取り入れた教育を行っている。また、福島イノベーション人材育成実践事業の成果を生かした探究活動にも取り組む。

お茶の水女子大学附属高等学校

東京都文京区にある1882年創立の日本最初の高等女学校。
基礎・基本を重視し、自主・自立の精神を備えて広い視野を持って他者と協働する生徒の育成を教育目標としている。
SSH第Ⅱ期の指定を受け、科学的な素養や卓越した探究力を備えて他者と未来を共創する女性リーダーの育成をめざす。昨年度は、「福島から考える再生可能エネルギーの持続可能性」について安定供給や廃棄物の問題なども踏まえて考察。

研究報告

帝京大学 医療技術学部 大谷浩樹研究室

環境放射線や放射能に対して不安を感じる現状について、人々の心理変化に関するナラティブ分析を行い不安を分類することで、不安低減にアプローチするなど、放射線リスクコミュニケーションにおける心理的な解析と感情認識などをテーマに取り組んでいる。

研究報告

慶應義塾大学 経済学部 橋口勝利研究会

「現代日本の地域活性化への調査と歴史的研究」をテーマに、日本各地の地域への現地調査・研究を行い、その課題や解決策を模索します。東日本大震災以来、学生たちは、福島県で現地調査を実施し、住民帰還や除染、廃炉、新たな産業振興やまちづくりの問題を考えています。そしてその調査結果をもとにして、自治体や企業の方を交えてのディスカッションを行い、卒業論文の作成を目指します。

研究報告

獨協大学「復興知」事業 チーム米山

本学は、福島県「大学生と集落の協働による地域活性化事業」や福島イノベーション・コースト構想推進機構「大学等の『復興知』を活用した人材育成基盤構築事業」に参画し、多くの学生が福島県に入り活動している。講演・討論会「フクシマの未来を考える」開催も第11回となった。
内閣府主催「地方創生☆政策アイデアコンテスト2025」で田村市を対象とした脱炭素×まちづくりの提案で、東北経済産業局長賞を受賞(大学として5年連続)。